WAM助成フォーラム2019

### 「協力」と「対話」から見えたもの ~社会とのコミュニケーションがうながす事業の成長~



#### 自分自身について

- 水谷衣里(mizutani eri)
  - 株式会社風とつばさ 代表取締役 / コンサルタント
  - ウェブサイト http://www.kazetotsubasa.com (「風とつばさ」で検索して下さい。)



#### 事業実施や組織基盤強化の支援

■ 営利・非営利を問わず、コンサルティングを通 じて社会課題解決に向けた実践に取り組む人 や組織に伴走し、成長を支えます。

#### (例)

- ✓ プロジェクト・マネジメント支援
- ✓ リサーチ業務の実行支援
- ✓ ノウハウの言語化・可視化・組織内共有に向 けたサポート



#### 支援スキームの検討・改善・実行支援

■ 課題解決を支える助成財団や民間企業、公 的機関の皆さんと共に、社会全体の仕組みや 企業・組織の個別の支援スキームの高度化・ 改善を支援します。

#### (例)

- ✓ 助成プログラムの高度化・改善・インパクト評 価の導入支援
- ✓ 各種社会貢献活動・CSRに関する戦略立案・ 実行支援



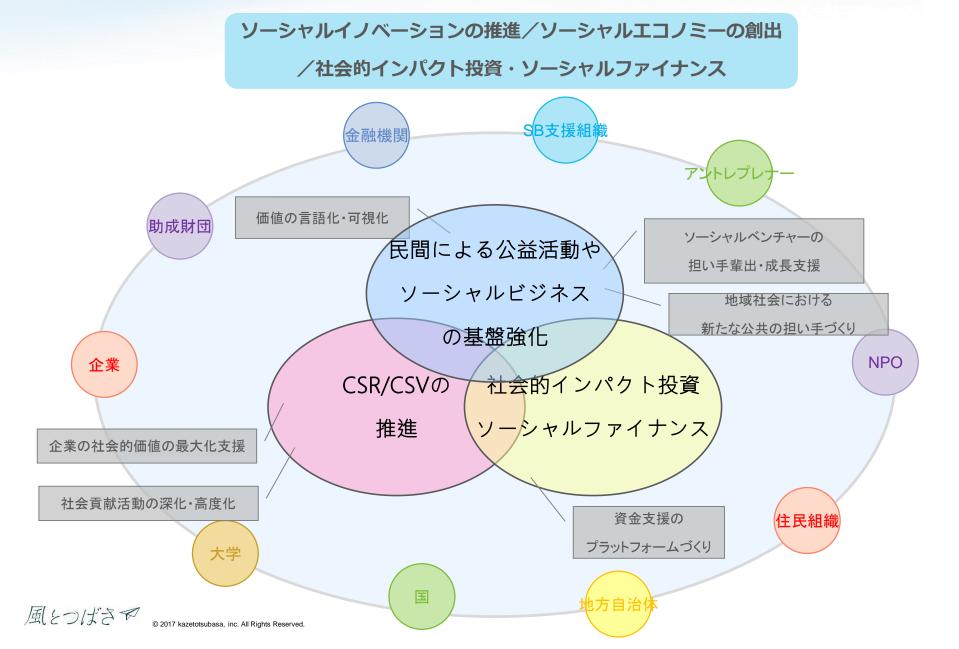
#### 調査研究・情報発信・政策提案

#### コレクティブ・インパクト創出の推進

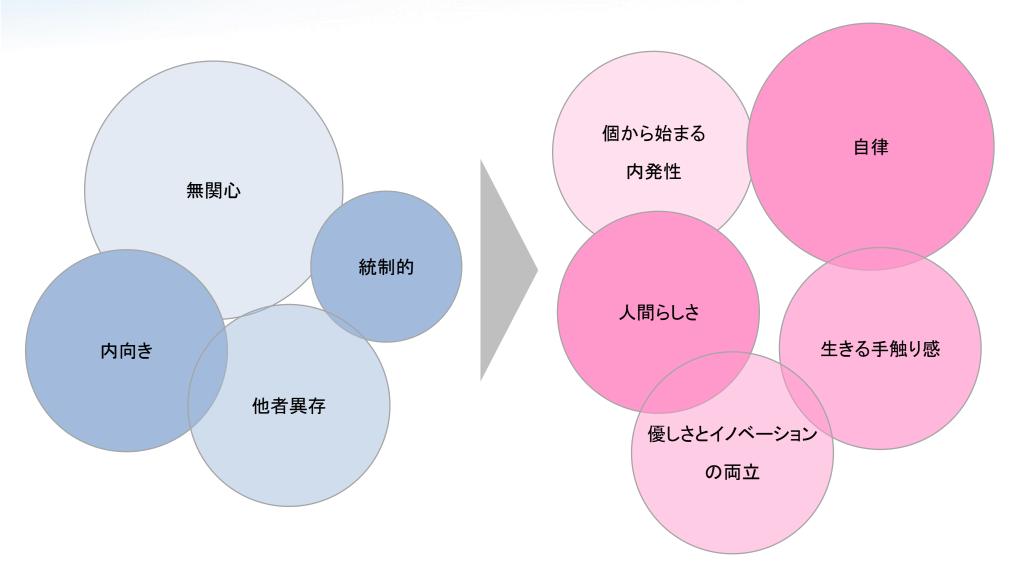
- 専門的知見を活かし、ソーシャルセクター全体 の知見向上・経験蓄積・ノウハウ共有を支援 します。
- ビジネスセクターとソーシャルセクター、行政 セクターとの事業・組織・人材のコラボレーショ ンを支援し、コレクティブ・インパクトの創出を 支えます。

- ✓ 政策提案に向けた調査研究・実行支援
- ✓ 各種セミナー・講演・執筆
- ✓ 企業向け・団体向け研修・ファシリテーション

#### 関心領域・専門分野



#### "世界と自己""他人事と自分事""利他と利己"



### 対話…ダイアローグ

# Dialogue Dialogos

風をつばさる © 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

# Dialogos

Dia

~を通して

= through

logos

言葉

風とつばさる

5

#### 対話の形

儀礼的対話

ダイアローグ

ディベート

プレゼンシング

#### 知性に対する3つの段階

#### 環境順応型

#### 自己主導型

#### 自己変容型

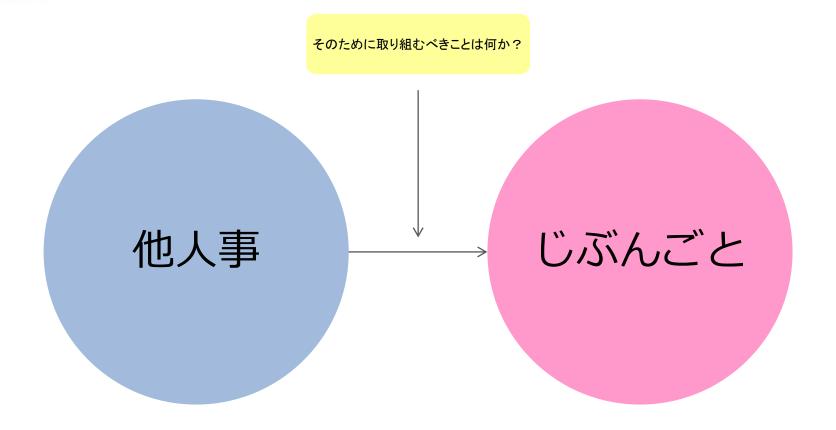
- ■周囲の反応や期待が基準
- ■帰属意識を持つ対象に従うことで自我を形成する
- ■自身の価値観やイデオロギー、行動規範に 従い行動する
- ■自分の役割を設定し、管理することで自我 を形成する
- ■自分自身の価値基準やイデオロギーを客観 的にみる
- ■複数の視点と矛盾を受容し統合しながら自 我を形成する

#### 良き「対話」のために

- ■自らがおかれた状態・状況・価値観への理解を 深める
- ■他者(相手)の目線を持つ
- ■「わかりあえない」「他者である」前提から出 発する
- ■一人ひとりの意見から、システム全体への洞察に昇華させる

(そしてそれは、最後は「自分自身」への洞察に繋がる)

#### 広い視野から"社会を変える当事者"を作り出すために



#### 本日のスピーカー



#### 特定非営利活動法人STORIA 代表理事 佐々木 綾子 さん

【プロフィール】

化粧品メーカー勤務を経て、東日本大震災後、東北で浮き彫りとなった「子どもの貧困」を解決するため、法人を設立。経済的困難を抱えた子どもとその保護者の居場所事業を地域や企業と協働で取り組む。2014年仙台市ひとり親家庭等自立促進計画策定協議会委員等を歴任。



#### 一般社団法人サステイナブル・サポート代表理事 後藤 千絵 さん

【プロフィール】

広告出版社、外資系企業勤務を経て、2010年岐阜県に 1ターン。就労支援の仕事と出会い、効果的な支援の仕組 みを構築するため法人を設立。以後、発達障がい者、精 神障がい者の就労支援に尽力。岐阜県発達障害者支援セ ンター青年期自立支援プログラム検討会委員。



#### 認定特定非営利活動法人 四つ葉のクローバー 理事長 杉山 真智子 さん

【プロフィール】

ひとり親として3人の子どもを育てながら、朝・昼・夕・晩と働く。2009年、児童養護施設で親から虐待を受けた子どもを支えるボランティア活動に従事。施設退所後の不安定で孤独な生活を支えるため、法人を設立。子どもが自分の命と心を守っていけるよう寄り添い、向き合い続けている。





代表取締役 水谷 衣里さん (ファシリテーター)

【プロフィール】

三菱UFJリサーチ&コンサルティングにて、民間公益活動・企業の社会貢献活動に関する政策立案、コンサルティングに従事。独立後も引き続きソーシャルファイナンス・社会的インパクト投資・コミュニティ投資といったソーシャルセクターへの資金還流や、ソーシャルベンチャーの経営支援をはじめ課題解決の実践者・支援者の創出・育成に携わる。また、2018年には一般財団法人 世田谷コミュニティ財団を立ち上げ、代表理事を務める。公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン理事。各種助成プログラムの審査員やアドバイザー、複数の大学教員等の実績を持つ。

#### ご紹介



#### 特定非営利活動法人STORIA 代表理事 佐々木 綾子 さん

【プロフィール】

化粧品メーカー勤務を経て、東日本大震災後、東北で浮き彫りとなった「子どもの貧困」を解決するため、法人を設立。経済的困難を抱えた子どもとその保護者の居場所事業を地域や企業と協働で取り組む。2014年仙台市ひとり親家庭等自立促進計画策定協議会委員等を歴任。

#### 【団体・事業紹介】

東日本大震災後、2016年に法人を設立しました。「貧困の連鎖から愛情が循環する社会へ」を理念に、経済的困難を抱えた子どもを対象に「生き抜く力」を育む居場所づくりと家庭支援に、地域と協働で取り組んでいます。

WAM助成では、貧困の連鎖の一要因となっている「負の社会的相続」を断ち 切るため、子どもの非認知能力を向上させる体験学習型のプログラムを開発 しました。その実施と効果測定を行いながら成果が生み出すプログラムや人 材育成モデルの構築を図りました。

風とつばさる

#### Storia 佐々木さんの取り組みをお伺いして ~私なりの気づき~

- 事業の成果を向上させるために、いくつか重要なチャレンジをされていると感じる
- 具体的には以下の3つ。

#### アウトカムの 把握

- ■非認知能力の向上など、重要なアウトカムを把握
- ■その内容を子どもたちに積極的にフィードバックしている

#### 本質的な学びへ のこだわり

- ■子どもたちが生きる次の時代を見通して、探究的なプログラム を積極的に実施
- ■プログラムの質が、子どもたちの変化につながっている

#### すそ野の広がり

- ■居場所づくりを通じて、地域の協力者のすそ野が広がっている
- ■卒業した子どもたちが中学生になり循環するモデルに
- ■そのことに主催者自身がエンパワーメントされている
- **✓プログラムを丁寧に運営することで、「社会を変える当事者」を増やしていること**
- √プログラムの改善と、当事者の自己肯定感の向上を連動させていること=評価による自己改善

#### ご紹介



#### 一般社団法人サステイナブル・サポート 代表理事 後藤 千絵 さん

【プロフィール】 広告出版社、外資系企業勤務を経て、2010年岐阜県に Iターン。就労支援の仕事と出会い、効果的な支援の仕組 みを構築するため法人を設立。以後、発達障がい者、精 神障がい者の就労支援に尽力。岐阜県発達障害者支援セ

ンター青年期自立支援プログラム検討会委員。

#### 【団体・事業紹介】

誰もが自分らしく生きることのできる社会を目指し、2015年に法人を設立しました。障がいがあっても働くことを希望する人に就労支援を提供しています。この他、就労移行(定着)支援事業所・就労継続B型事業所を展開しています。

WAM助成では、発達障がいの特性や傾向があっても福祉制度が利用できない 大学生を対象に就労するにあたっての支援を行いました。大学から社会への 移行期につまずき、問題が複雑化する前に予防する仕組みを外部有識者と検 討し、成果を「就労」ではなく、自己の特性への気づき・受容と自分らしい 生き方の選択とし、社会適応をサポートしました。

#### サステイナブル・サポート 後藤さんの取り組みをお伺いして ~私なりの気づ き~

#### 評価による 価値の可視化

■事業評価、社会的インパクト評価によって、事業の効果や価値の可視 化にチャレンジしていること

#### 伴走者との 対話

- ■伴走者との対話を通じて、仮説を磨き、コアバリューはどこにあるの か、納得解を導き出そうとしていること
- ■それを通じて、周囲との協力関係を構築しようとしていること

#### 知恵の共有と リソース獲得

■導き出されたコアバリューを軸に、周囲との協力関係を構築しようと していること

14

■協力者の開拓によって、アウトリーチの可能性を高めていること

- **「地域社会を面として考えたときに、自らが果たすべき役割はどこにあるのか、俯瞰的な目で考えること**
- √ そのためのヒントを、対話と協力の中から、探していくこと。対話できる環境を生み出そうとしていること

風とフルスで © 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

#### ご紹介



#### 認定特定非営利活動法人 四つ葉のクローバー 理事長 杉山 真智子 さん

【プロフィール】 ひとり親として3人の子どもを育てながら、朝・昼・夕・晩と働く。2009年、児童養護施設で親から虐待を受けた子どもを支えるボランティア活動に従事。施設退所後の不安定で孤独な生活を支えるため、法人を設立。子どもが自分の命と心を守っていけるよう寄り添い、向き合い続けている。

#### 【団体・事業紹介】

2013 年に法人を設立し、児童養護施設退所者や社会的養護の必要な子どもを 対象にシェアハウス事業(住宅支援、生活支援)を開始しました。2016 年より 認定 NPO 法人となり、シェアハウス事業は、同年「自立援助ホーム」とし て県に認可されました。

WAM助成では、自立援助ホーム退所後の子どもたちの周場所づくりと支援体制の強化を図る「アフターケア事業」を実施しました。専門職による生活支援や地元企業との連携による就労支援の他、施設退所者が自ら主催し、経験や思いを語るイベントには300名の市民が来場するなど、地域づくりを前へ進めました。

#### 四つ葉のクローバー 杉山さんの取り組みをお伺いして ~私なりの気づき~

■ 困難に直面する子どもたちを支えるために、地域内での関係性を紡ぎながら事業をされているのがポイント

## 地元中小企業との連携

- ■地元の中小企業同友会との連携により、若者たちの働く場を見つけ、 継続的な支援に繋げている
- ■企業側の不安を、団体側が支え、団体側の苦労を企業側がわかちあう 関係性が生まれている

### 地域に開く運営

- ■ドリームライブやBBQなど、運営状況や子どもたちの状況を積極的に 開示
- ■通信なども使いながら、背景や入居者、運営者の人となりを伝え、共 感者や仲間を増やしている

#### 若者たちの 自主性の尊重

- ■若者たちの悩みや怖れ、戸惑いを共有する機会を積極的に創出
- ■イベントは若者たちが自主的に運営できるよう支えている
- ■自分の存在が肯定される、見守られていると若者自身が感じることで、 社会の中で生き抜く力を身に着けている
- ✓ 「困った」を開示することで、協力者を開拓していること
- ✓ 結果として、「ずっと続く支援」「"その場"でなく"人生"を支えるコミュニティ」を作り出していること

#### 登壇者の皆さんへの問い



Q:WAM助成事業を振り返って教えてください。 ステークホルダーとの協力関係を構築する上で、 鍵となったことはなんですか?



#### 対話する相手は誰なのか?

周囲との対話自己との対話

自己

「場」をつくる ツールをつくる

対象者

スタッフ

事業パートナー

対象者の周囲

経営層

有識者

ボランティア

地域社会全般

伴走者

Q:WAM助成事業を振り返って教えてください。

"評価"へのチャレンジの必要性を感じた理由や局面は どこにありましたか?

チャレンジから得られた学びはなんでしたか?



#### 評価とは何か?

### 評価

- ① 物の善悪・美醜などを考え、価値を定めること。「死後に学説の一が高まった」
- ② 品物の値段を定めること。また、その値段。「土地の一が年々上がる」「一額」
  - ③ 物の値打ちを認めてほめること。「一できる内容の本」

風とつばさる

民間公益活動にとって評価とはどうあるべきか?

## 組織と事業の改善

### 社会とのコミュニケーション

風とつばさる

22

#### 民間公益活動にとって評価とはどうあるべきか?

# X監査

# × 査定

風をつばさる © 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

23

# 貨幣価値換算

# 第三者

取り組むのであれば….

# 対話とエンゲージメント

# に繋がる評価を

風とつばさる

25

# 「消耗」でなく

「発掘」と「創造」

につながる時間を

風とつばさる

26

Q:WAM助成事業を振り返って教えてください。

対話から得られた実りは何でしたか?

